

【史料紹介】

昭和二〇年代の「別冊文藝春秋」——中間小説誌総目次 附「文藝春秋別冊」総目次

The Table of Contents of *Bessatsu Bungeishunju* of the 20's from 1945 to 1954

小嶋洋輔・西田一豊・高橋孝次・牧野 悠

KOJIMA Yousuke, NISHIDA Kazutoyo, TAKAHASHI Koji, MAKINO Yu

要旨 本研究事業は近代史の中で最も読まれたジャンルでありながら、定義が確定してこなかった中間小説について見直し、「現象」として捉えることで新たな中間小説像を構築することを目的としている。その目的を達成するため、具体的には以下の三種の解明を目指している。それは①中間小説誌が如何なる雑誌メディアであったかの解明（資料の保存・公開）、②中間小説誌編集の戦略の解明、③中間小説誌読者の位置づけ、とまとめられる。この解明を行うに、有効かつ重要な作業といえるのが、表紙、目次構成、挿絵、読書欄、編集後記の調査である。こうした実際の雑誌を手にとつての調査は、雑誌編集の戦略の抽出、また中間小説各誌の性格の明示につながる。本「史料紹介」は、昭和二〇年代初頭に創刊され、中間小説誌の市場形成に伴い、次第に中間小説誌的性格を取り入れ、独自の地位を獲得するに至つた「別冊文藝春秋」の、昭和二〇年代の目次を翻刻する。

【凡例】

- ・総目次は、創刊年次順とした。
 - ・総目次は、原本の記載を尊重し、頁順に改めず、目次の記載順や配置をそのまま生かすよう努めた。
 - ・目次の記事名に附された「惹句」は、煩雑を避けるためこれを省略した。
 - ・カット・挿絵画家名は、目次に記載がない場合、原則としてそのままとした。
 - ・頁数の表記は、漢数字に統一した。
 - ・仮名遣い・送り仮名はそのままとし、誤字脱字誤植と判断されるものは、本文と校合の上、校訂した。
 - ・常用漢字表に含まれる漢字の字体は、誌名など一部の固有名詞を除き、原則的に常用字体に改めた。
 - ・校訂の際は、「」（角括弧）で示し、角書きは「角」、横書きは「横」などと略記した。
 - ・注記が必要な場合は、一号ごとにまとめて記載した。
- ・目次は、創刊年次順とした。
 - ・総目次は、原本の記載を尊重し、頁順に改めず、目次の記載順や配置をそのまま生かすよう努めた。
 - ・目次の記事名に附された「惹句」は、煩雑を避けるためこれを省略した。
 - ・カット・挿絵画家名は、目次に記載がない場合、原則としてそのままとした。
 - ・頁数の表記は、漢数字に統一した。
 - ・仮名遣い・送り仮名はそのままとし、誤字脱字誤植と判断されるものは、本文と校合の上、校訂した。
 - ・常用漢字表に含まれる漢字の字体は、誌名など一部の固有名詞を除き、原則的に常用字体に改めた。
 - ・校訂の際は、「」（角括弧）で示し、角書きは「角」、横書きは「横」などと略記した。
 - ・注記が必要な場合は、一号ごとにまとめて記載した。

「別冊文藝春秋」昭和二〇年代総目次 附「文藝春秋別冊」総目次

概略

【発行期間】昭和二十一年十二月〜平成二十六年現在も継続中（本目次では、昭和二〇年代に発行された、第一号から昭和二十九年十二月発行の四十三号までの四十三冊を扱うこととする）。

また、「別冊文藝春秋」創刊当初（第六号まで）の巻号数表記には不統一があり、目次では「号」表記、奥付・編集後記では「集」表記、背表紙・裏表紙では「巻号」表記など、混在した表記のまま記載されている（第二号が「第二巻第一号」と表記されているなど）。しかし、第七号以降は「号」表記で統一されており、また本目次では目次の記載を生かす方針を採るため、以下、特に断らない限りは目次での「号」表記を採ることとする。

それに加え、「別冊文藝春秋」創刊の経緯と、雑誌の性格を明確にするため、昭和二十一年二月と五月、文藝春秋社解散の時期に、「文藝春秋」の臨時増刊号として発行された「文藝春秋別冊」二冊の目次をも巻末に付す（「文藝春秋別冊」の名称も目次の記載に拠り、以下、文藝春秋新社のものと区別し号数も「集」表記とする）。

【判型・刊行頻度】A5判。創刊当初は不定期刊。ただ、「文藝春秋別冊」第一集の「編集後記」には既に「別冊文藝春秋は、年四回発行の予定」と明記されており、当初から季刊雑誌として想定されていたと考えられる。第三号（昭和二十二年六月）の「編集後記」でも他の季刊雑誌に言及する箇所があり、第十二号（昭和二十四年

八月）までは概ね三、四ヶ月毎の発行であったが、それ以降は基本的に隔月刊となる。のち、昭和三十四年の「週刊文春」創刊準備に伴い、第六十九号（昭和三十四年九月）以降は季刊となっている。

【発行所】「文藝春秋別冊」二冊の発行所は株式会社文藝春秋社。所在地は東京都麹町区内幸町二ノ一大阪ビルヂング。「別冊文藝春秋」の発行所は、株式会社文藝春秋新社。所在地は東京都麹町区内幸町二ノ三幸ビルヂング（麹町区は昭和二十二年三月に神田区と統合し、千代田区に区名変更）。第十七号（昭和二十五年十月）より所在地は東京都中央区銀座西五ノ五に移転（現在の「株式会社文藝春秋」への社名変更と紀尾井町への本社移転は昭和四十一年三月）。

【編集人・発行人】「文藝春秋別冊」の発行兼印刷兼編集人は永井龍男。「別冊文藝春秋」の編集人は順に、鈴木貢（第一号〜第五号）、徳田雅彦（第六号〜第二十八号）、田川博一（第二十九号〜第四十三号）。発行人は池島信平。

【印刷人・印刷所】「文藝春秋別冊」の印刷人は前記の通り、永井龍男。「別冊文藝春秋」の印刷人は小坂孟（印刷人の記載は第一号〜第三号まで）。印刷所はいずれも大日本印刷株式会社。所在地は東京都牛込区加賀町一ノ二（昭和二十二年三月の合併で牛込区は新宿区に区名変更）。ただし、第九号（昭和二十三年十一月）のユトリロの口絵、第十一号（昭和二十四年五月）のルオーの口絵の原色版印刷だけは、光村原色版印刷所（現・光村印刷株式会社）で行われている。

【概要】「別冊文藝春秋」は、戦後の文藝春秋社解散後、再出発した文藝春秋新社から、「文藝春秋」の別冊として創刊された雑誌である。

戦後の「文藝春秋」復刊(昭和二十年十月号)や「オール讀物」復刊(昭和二十年十一月号)によって文藝春秋社は再スタートを切ったが、終戦直後の用紙難に伴って経営困難に陥り、両誌ともに休刊が続いた。

また昭和二十年十月には業界団体として日本出版協会が設立され、出版界の再編の流れが加速していた。昭和二十一年一月二十一日には、民主主義出版同志会が中心となって、戦争協力出版社として大日本雄弁会講談社、主婦之友社、旺文社、家の光協会、第一公論社、日本社、山海堂の七社を日本出版協会から除名する決議を行い、二十四日には出版界粛正委員会が設けられ、二月二十七日には、主婦之友社など七社に対し粛正主旨を通達し、さらに博文館、新潮社、文藝春秋社、雄鶏社など十一社の審査を決定している。当時、日本出版協会が商工省の用紙配給委員会の配給申請事務を代行していたため、協会除名による事実上の用紙配給停止を出版社は恐れていた事情もあった。こうした経緯もあって、社主の菊池寛には事業継続の意欲はなく、昭和二十一年三月七日をもって文藝春秋社は解散した。

しかし、旧文藝春秋社社員の一部は佐佐木茂索を改めて社長として迎え、三月二十三日に文藝春秋新社を設立、「文藝春秋」「オール讀物」の刊行が議決される。

こうした戦後の混乱のただ中で、昭和二十一年二月、旧文藝春秋社は「オール讀物」を休刊とし、本誌「文藝春秋」の臨時増刊号と

して「文藝春秋別冊」を創刊。本誌の編集長であった永井龍男を発行兼印刷兼編集人とした。この辺りの事情を、社史『文藝春秋の八十五年』(文藝春秋、平成十八年十二月)は次のように解説している。

(前略) 舟橋聖一、島木健作、井伏鱒二、平林たい子、久保田万太郎らの小説に、時代に相応しく大仏次郎、佐藤春夫、今日出海による日本人論特集と戦前からの常連執筆者が顔を揃えた目次からは、敗戦の前年『文藝春秋』に吸収合併された『文學界』に替わる自前の文芸誌をという意気込みが感じられる。編集兼発行人は専務・永井龍男だったが、三月、菊池寛が突然の文藝春秋社解散を発表し、五月発売となる旧文藝春秋社最後の刊行誌『文藝春秋 別冊2』の編集を終えて、永井は退社した。

設立された文藝春秋新社で企画が練り直され、『別冊文藝春秋』として再出発したのは同年十二月、編集後記で「本誌『文藝春秋』とは独立して文芸美術雑誌として発足することになった」と対象範囲を広げることが謳われている。(後略)

ここからも、「文藝春秋別冊」は当初「文學界」などの文芸誌を失った旧文藝春秋社の文芸誌再建の意図が色濃く読み取れるものであったこと、文藝春秋社解散を契機に企画が練り直され、「別冊文藝春秋」として再発足したことが分かる。「文藝春秋別冊」は「文藝春秋」本誌の性格を温存しつつ、創作欄を充実させたものだったが、「別冊文藝春秋」はもう一歩進んで当時の小説需要に応えた、あくまで小説を柱とする文芸雑誌となった。他誌との差異化の意志は、和洋両画壇の大家の手になる表紙からも明らかである。とりわけ二十一号ではパリ在住のマチスに装画を直接依頼し、オリジナルの

切り絵が表紙を飾って話題になったという。仙花紙の誌面にも、美術雑誌としての風合を醸し出そうとする努力の跡が認められる。これらの編集方針が、「別冊文藝春秋」に他誌と異なる本物の芸術の香りをまとわせたことは間違いない。当初から売上げは好調で、第二号の編集後記には「閾値」での売買が横行している旨が記されている。

昭和二十二年十月には菊池寛とともに佐佐木茂索も公職追放となり、翌年三月に菊池はこの世を去る。戦後の出版社の激増と資材不足、用紙統制に伴う建頁制限もあって他誌との差別化が困難なこの時代に、月刊誌ではなくポリウムが出せる別冊で新たな特色を出そうという戦略は、結果的に大きな成功を収めたといえる。

昭和二十三年十一月二十一日発行の日本出版協会機関紙「出版文化」掲載の「主要雑誌売れ行き調査」（日本出版協会文化部雑誌課昭和二十三年九月調）によると、「別冊文藝春秋」は「文芸雑誌の部」に分類され、「新潮」に次いで二番手、鎌倉文庫の「人間」を上廻り、文芸誌乱立の時代にも抜きんでた売上げを示している。ただこの調査は、都内主要小売店十八店舗で調査、調査対象の雑誌は主要三百種余り、仕入部数から返品数を引いた部数を調査し、各店の希望部数と実際の仕入部数が異なる場合は、「需要部数」という形で三ヶ月間の平均値を数値化して比較したもので、「新潮」や「人間」は希望部数通りの仕入が実現していないため、実際の売上げで言えば、「別冊文藝春秋」は当時もつと売れた文芸雑誌と言えるのである。部数では、「大衆雑誌の部」に分類された「オール讀物」の売上げも、「別冊文藝春秋」に遠く及ばない。

すでに「別冊文藝春秋」も広く出版界に認知されるようになり、

昭和二十七年一月には、ライバル誌である「小説新潮」も「別冊小説新潮」を創刊するに至る。それへの対応もあってか、同年六月の人事異動に伴い、田川博一が「別冊文藝春秋」の編集長に就任すると、目次に惹句を取り入れ、芥川賞・直木賞に関する特集が恒例となつて、「文芸美術雑誌」としての性格は次第に希薄化していく。

その背景として、昭和二十四年三月から、それまで同人誌として刊行されていた文芸雑誌「文學界」の編集・発行を開始して以降、大衆文芸誌としての性格が強い「オール讀物」と「別冊文藝春秋」の三誌が文藝春秋新社内で並び立つことになった事情がある。「別冊文藝春秋」について大村彦次郎『文壇栄華物語』（ちくま文庫、平成二十一年十二月、二〇〇頁）では「この雑誌は『文學界』と『オール讀物』の中間を埋める季刊の小説誌」とされており、文藝春秋社史では「執筆者の一人が後になって『別冊』は小説好きの大人の雑誌、文学青年が読者だった『文學界』より格上の感じで緊張して書いたものだ」（二二二頁）と述懐されている。そこに『文學界』は実験の場所で『オール』は飯櫃、『別冊』が檜舞台といったところだな」という声もあった」とあるように各誌の性格がおのずと異なつてきて、編集方針の棲み分けも行われていき、中間小説誌の拡大する市場を見据え雑誌の方向性にも微修正が施されていくことになったと考えられる。

昭和二十七年の人事異動では隔月刊のノンフィクション誌「増刊文藝春秋」の編集も「別冊文藝春秋」の編集部が行うこととなり、二十九号以降は、グラビアやノンフィクション、実録・実名小説などが「別冊文藝春秋」に新たな色彩を加えるようになっていく。

出版界では「文藝春秋は別冊の売上げで社員賞与をまかなえてい

る」と噂されたほど順調に号を重ね、中間小説誌が総計百万部近い部数を誇った全盛時代である昭和三十年以降も代表的な雑誌としての地位を譲らなかつた。こうした隆盛は、文藝春秋新社のネットワークを最大限活用し、芥川・直木両賞の受賞作家が名を連ねる小説特集など、多彩な顔ぶれが一堂に会する贅沢な誌面を打ち出したからこそ維持されたともいえよう。

「別冊文藝春秋」の編集方針の変化の幅は、紆余曲折の結果ではあるが、時代の変化に対する柔軟性と大胆さを示すもので、今日まで続く雑誌の土台はこの昭和二〇年代に築かれたといつてもよいだろう。

創刊号 昭和二十一年十二月十五日発行

目次

表紙……青山二郎

口絵「浴婦四図」……ドガ

扉絵・目次カット……藤田嗣治

恥……長与善郎(一一)

裸体……林房雄(三五)

燃える棘……石川淳(五七)

あいびき……林芙美子(八八)

虹橋路人種……古川洋三(一〇七)

文学と死について……正宗白鳥(一二三)

渡り鳥なら……三好達治(八四)

詩まむしぐさ……堀口大学(八五)

物言ふ蘆……大木惇夫(八六)

カット……伊藤廉・岡鹿之助・荻須高德

デッサン……マチス(一三八)

ドガについて……荻須高德(二六一)

マチスの新鮮さ……久保守(二四二)

辞書雑談……市河三喜(一四四)

法隆寺夢殿観音……上野直昭(一四九)

サマセット・モーム……石田憲次(一五三)

数学的な言葉……矢野健太郎(一五七)

男と犬……ウージェーヌ・ダビ／山内義雄(二六三)

唐詩翻訳十章……佐藤春夫(二〇二)

一月二十三日……丁玲／奥野信太郎(二七五)

編集後記……(一九二)

〔総一九二頁・定価十五円〕

第二号 昭和二十二年四月一日発行

目次

表紙……………伊藤廉	官設公募展廃止論……………福島繁太郎(二〇四)
口絵……………ドラム	スコレー……………田中秀央(二〇七)
扉絵・目次カット……………裕伊之助	豚と雀……………中山伊知郎(二一一)
或作家の演説……………武者小路実篤(二二)	老人心理……………正宗白鳥(一一六)
夜の家……………下村千秋(一一)	若き藤村の手紙……………川崎竹一(一二六)
浜辺の四季……………壺井栄(二八)	ドラム雑記……………宮田重雄(一二二)
野路で……………伊藤永之介(四五)	編集後記……………(一六〇)
上野……………室生犀星(六二)	〔総一六〇頁・定価二十八円〕
表通り……………佐多稲子(七六)	(1) 背表紙には「第二巻第一号」と表記されている。
道標……………豊島与志雄(八七)	第三号 ^② 昭和二十二年六月一日発行
あかい陣羽織……………木下順二(一三八)	目次
カット……………伊藤廉・宮田重雄・中村直人・荻須高德・東原徹	断れ雲……………佐藤春夫(二)
ゲーテの即興詩・ゴリキーの年輪……………(一一五)	雪のイブ……………石川淳(二八)
ドミおしやべり・キュービズム……………(一五九)	麗しき脊髄……………林芙美子(四六)
あきれ蛙……………(一二二)	金錢無情……………坂口安吾(六〇)
蛙・小曲……………草野心平(五六)	モウパッサン……………正宗白鳥(九三)
今宵ひ この集ひに……………江口榛一(五八)	日記抄……………久保栄(一〇三)
手……………大木実(六〇)	口絵……………ルノアール
随筆	表紙……………伊藤廉
ローマの秋……………大類伸(二〇〇)	

目次カット……三雲祥之助
カット……伊藤廉・岡鹿之助・荻須高德・中村直人・宮田重雄
編集後記……(一一〇)

〔総一二〇頁・定価二十五円〕

(2) 裏表紙には「第二巻第三号」と表記されている。

第四号⁽³⁾ 昭和二十二年十月一日発行
目次

蕩児……丹羽文雄(一一)
男山……高木卓(二五)
山羊と花……丸山薫(四二)
入院記……上田進(四四)
蘆の笛……中里恒子(五八)

聖ゴドリツク……寿岳文章(七六)
黒板は何処から来たか……小倉金之助(七九)
芸術時事……須田国太郎(八三)
離見の見……野上豊一郎(八五)
大学教授……福原麟太郎(八八)

「女の一生」……正宗白鳥(九二)

ピカソの豹変……大久保泰(一〇〇)

二人の文豪……山内義雄(一〇五)
不思議な国……中谷宇吉郎(一一三)

口絵……ピカソ 表紙……伊藤廉

目次カット……小糸源太郎 カット……ピカソ・荻須高德・岡鹿之助・菊池一雄・三雲祥之助

〔総一二〇頁・定価三十円〕

(3) 裏表紙には「第二巻第四号」と表記されている。

第五号 昭和二十二年十二月一日発行
目次

飛梅……石川淳(一一)
海峡夜泊……尾崎士郎(二二)
麵麴の話……梅崎春生(三二)
霧……田村泰次郎(五〇)
俗物……佐竹龍夫(六八)
裾野……舟橋聖一(九三)

放浪画家モジリアニ……大久保泰(一一一)

口絵……モジリアニ 表紙……伊藤廉 目次カット……宮田重雄

〔総一二〇頁・定価四十円〕

第六号 昭和二十三年四月一日発行

目次

- ゴロー三船とマゴコロの手記……坂口安吾(一)
- 子の消息……上林暁(三八)
- 修介……阿川弘之(五一)
- あぢさる……林芙美子(七六)

特集「横」人間の権利

Aコムプトン(九七)

Fノースロップ(一〇〇)

嵯峨根遼吉(一〇四)

鎌倉文士と中央沿線作家……中西修治(二〇六)

横光さんの臨終……柴豪雄(二一〇)

デュファイの歌……大久保泰(二一四)

口絵・カット……デュファイ

表紙……杉本健吉

目次・カット……野口弥太郎

[総一二〇頁・定価五十円]

第七号 昭和二十三年七月一日発行

目次

盛粧……丹羽文雄(一)

葦の抗ひ……藤原審爾(二七)

皮膚の花……井上友一郎(五〇)

裾野……舟橋聖一(七〇)

魔術師ポナール……大久保泰(八六)

鈍(詩)……大木実(一〇七)

追憶……谷崎潤一郎(八四)

愛読する人間……宇野浩二(二〇八)

モウパッサン……正宗白鳥(二一五)

菊池寛・人と文学を語る……小林秀雄・今日出海・河上徹太郎・林

芙美子(九四)

口絵……ポナール

[総一二〇頁・定価五十円]

第八号 昭和二十三年十月一日発行

目次

感傷的な気持……正宗白鳥(一)

断層……小林達夫(九)

翳ある青春……佐竹龍夫(四四)

火花……新田潤(六七)

野にうたふ歌……佐藤春夫(九二)

スーチンの叛逆……大久保泰(九四)

ドガの言葉……佐藤敬(一一二)

中世・愛の夜話……勝見勝(二〇二)

かげろうの日……谷口吉郎(二〇五)

人間菊池……山本有三(八八)

主客対談……長与善郎(一一四)

口絵……スーチン

表紙……杉本健吉

カツト……児島善三郎

[総一二〇頁・定価七十円]

第九号 昭和二十三年十一月一日発行

小説特集号 目次

表紙……横山大観 口絵(原色版)……ユトリロ

晚菊……林芙美子(五)

山羊の首……三島由紀夫(二二)

三文ホテル……井上友一郎(三〇)

民謡……阿部知二(四九)

くらげの足……真杉静枝(六四)

眼界……室生犀星(七八)

山口剛先生……尾崎一雄(九一)

裾野……舟橋聖一(一〇四)

農婦の死……佐藤春夫(一一六)

詩 北漢山……草野心平(一二六)

ユトリロの詩……福島繁太郎(一二八)

目次……杉本健吉 デッサン……小出楯重・ボナール

[総一三三頁・定価八十円]

第十号 昭和二十四年二月十日発行

目次

表紙……杉本健吉 口絵・デッサン……マチス

しぐれた日……里見弴(七)

運河の女……八木義徳(一九)

芳村氏の饒舌……井伏鱒二(三七)

汚された夜……北原武夫(五一)

鯛五枚……火野葦平(六八)

裾野……舟橋聖一(八七)

魔群の通過……三島由紀夫(九八)

マチスのオダリスク……大久保泰(一二六)

愛読する人間……宇野浩二(一二五)

新人作家の群像……中西修治(一三二)

[総一四二頁・定価八十五円]

第十一号 昭和二十四年五月二十日発行

小説十人集 目次

うちの猫……丹羽文雄(七)

愛情といふもの……平林たい子(二三)

流女抄……井上友一郎(三二)

藤衣……石川淳(四八)

藤の実の落ちる季節……藤原審爾(七〇)

春濤……神西清(九六)

廃園の女……武田泰淳(一六六)

天使図……田村泰次郎(一一六)

山のちよろり火……中山義秀(一二九)

裾野……舟橋聖一(一五六)

新聞紙……林芙美子(三〇)

立つてゐる樹木……高見順(六八)

約束……室生犀星(一一四)

ルオー断片……福島慶子(二五〇)

表紙……横山大観 口絵(原色版)……ルオー

目次・扉……野口弥太郎 カット……ピカソ ルオー マチス

[総一八二頁・定価九十円]

第十二号 昭和二十四年八月二十日発行

夏の小説集 目次

口絵・眠れるボヘミアン……ルソー

扉・目次……野口弥太郎

森の夕日……川端康成(七)

南海紀聞……阿部知二(二三)

鉛と泥……室生犀星(六六)

パルムの葉の日曜日……中里恒子(七九)

生命の果実……田中英光(一一四)

ナルシスの花……芹沢光治良(一三〇)

裾野……舟橋聖一(一四二)

中篇小说特集

勝負師 八十枚……坂口安吾(四〇)

本日休診 七十枚……井伏鱒二(九二)

蜜夜夢幻 百三十枚……藤原審爾(一五二)

詩 喪服の蝶……三好達治(一九〇)

原始人ルーソー……福島繁太郎(一九二)

カツト……猪熊絃一郎・石川滋彦・佐藤敬・関口俊吾

[総一九八頁・定価九十五円]

第十三号 昭和二十四年十月二十日発行

秋の小説集 目次

表紙……福田平八郎

口絵・陶器(皿)……ピカソ

葉鶏頭……林芙美子(七)

未来の淫女……武田泰淳(二二)

裾野……舟橋聖一(四〇)

春寂寥……上林暁(五一)

夫婦湯呑……森三千代(六八)

濡標(みおつくし)……真船豊(一〇七)

建設……大岡昇平(八三)

ちろり節……尾崎一雄(一三六)

一族……広津和郎(一五一)

偕老同穴……豊田三郎(一七〇)

醜女(しこめ)……里見弴(一八七)

ピカソの陶器……益田義信(二〇二)

扉・目次・カツト……野口弥太郎・川端実／高島達四郎・林武

[総二〇六頁・定価九十五円]

第十四号 昭和二十四年十二月二十五日発行

新春小説集 目次

表紙……徳岡神泉

口絵(スコツチ帽をかぶる馬方)……ド・ラ・フレネー

扉・目次……野口弥太郎

匂ひ董……林芙美子(七)

少年死刑囚……中山義秀(二九)

本日休診……井伏鱒二(五二)

鳳凰……石川淳(六二)

崖の上の天使……田村泰次郎(七二)

アロハ・オエ……井上友一郎(八四)

鼠色のパンフレット……神西清(九七)

裾野……舟橋聖一(一一六)

怪物……三島由紀夫(二〇〇)

ある服屋の物語……梅崎春生(一二六)

希望……椎名麟三(一三六)

通夜の客……井上靖(一六〇)

詩 家系図……野田宇太郎(二一五)
気品の画家「角」ド・ラ・フレネー……福島繁太郎(二一六)

カツト……中山巍・仲田菊代・関口俊吾・川端実

[総二三三頁・定価九十五円]

第十五号 昭和二十五年三月五日発行

春の小説集 目次

口絵・横たはれる詩人……シヤガル
カツト……マルケ ボナール

日本の牙 芥川賞候補作品……池山広(二七九)

春雪……真船豊(四八)

流れ蜚……藤原審爾(六八)

本日休診……井伏鱒二(三七)

雪娘……阿部知二(七六)

抹香町……川崎長太郎(一〇八)

網走刑務所……八木義徳(一一九)

真李子……真杉静枝(一二六)

裾野……舟橋聖一(一五二)

思美人……檀一雄(一六四)

襟巻 七十枚……丹羽文雄(八六)

水鳥亭由来 九十枚……坂口安吾(七)

シヤガルの夢……福島繁太郎(二二七)

詩

一年……鶴岡冬一(一〇六)

墓標……平井弥太郎(一六二)

[総二三〇頁・定価九十五円]

第十六号 昭和二十五年五月二十三日発行

小説二十人集 目次

表紙……安井曾太郎

口絵……アンソール

扉・目次……野口弥太郎

地獄……川端康成(七)

水汲み……丹羽文雄(二四)

夕ネ茄子は残しておけ……岸田国土(一五)

天草灘……林芙美子(三四)

中間色……高見順(四一)

善意……芹沢光治良(六〇)

最初が大切……永井龍男(七三)

筋肉……武田泰淳(八四)

本日休診……井伏鱒二(一〇四)

当代艶隠者伝……佐藤春夫(一五二)

銀座川……井上友一郎(二三〇)
啾声落つ……藤原審爾(二四四)
嘘……長与善郎(二三九)
火のイヴ……田村泰次郎(一六八)
滝のうぐひす……石川淳(一八〇)
女と花火……檀一雄(一八八)
黒い樹木……窪田啓作(一九六)
本因坊……火野葦平(二一四)
裾野……舟橋聖一(二三〇)
手帳……広津和郎(一一五)
異端者アンソール……福島繁太郎(二五七)
カット……林武・脇田和・三雲祥之助／三岸節子・益田義信・佐藤敬・碓伊之助
第十七号 昭和二十五年八月三日発行
夏の小説集 目次

[総二六二頁・定価百円]

モデルと作者……久保田万太郎(五二)
荒野……阿部知二(六四)
永遠の囚人……中山義秀(一九)
淋しい人……檀一雄(八七)
訓辞……今日出海(一〇二)
泰山木……中里恒子(一一二)
ガール・フレンド……林房雄(一二六)
摩周湖……八木義徳(一四四)
悲曲第二番……室生犀星(一七二)
銀座川……井上友一郎(一五八)
童話……佐多稲子(一八七)
無名颯風……梅崎春生(二〇〇)
裾野……舟橋聖一(二二五)
パオル・クレール……福島繁太郎(二四二)
カット……猪熊弦一郎・杉本健吉・野口弥太郎
第十八号 昭和二十五年十月五日発行
秋の小説集 目次

[総二四六頁・定価九十円]

表紙……安井曾太郎
口絵……パオル・クレール
巷談師……坂口安吾(四〇)
遠乗会……三島由紀夫(七)

表紙……安井曾太郎
口絵……スウラー

梟……………石川淳(七)	表紙……………安井曾太郎
母校……………井伏鱒二(二八)	口絵……………ドラ
第一のボタン……………武田泰淳(七四)	
神伝魚心流開祖……………坂口安吾(二六)	
今昔……………広津和郎(四二)	
無名颯風……………梅崎春生(六二)	
花……………光永鉄夫(一〇八)	
銀座川……………井上友一郎(九三)	
尋ネ人……………上林暁(一一四)	
モデルと作者……………久保田万太郎(一二九)	
妻……………大岡昇平(一四二)	
花園町界限……………田村泰次郎(二五五)	
月見座頭……………神西清(一六六)	
同類……………里見弴(二〇二)	
名人遯世……………藤原審爾(二四二)	
彼岸……………辻亮一(一八四)	
金糸雀……………林芙美子(二二六)	
ジョルジュ・スウラー……………福島繁太郎(二五七)	
カト……………猪熊弦一郎・林武／川端美・宮田重雄	
	[総二六二頁・定価九十五円]
第十九号 昭和二十五年十二月二十五日発行	
新春小説集 目次	
	北の海から……………川端康成(八)
	雪やまず……………舟橋聖一(一八)
	古老譚……………中山義秀(五四)
	この民かの民……………平林たい子(二七)
	銀座川……………井上友一郎(六二)
	雨……………阿部知二(一〇五)
	中篇小説特集
	放火事件(六〇枚)……………井伏鱒二(三四)
	牝犬(八〇枚)……………三島由紀夫(八四)
	街灯(六〇枚)……………丹羽文雄(一二六)
	裸体の地獄(七〇枚)……………椎名麟三(二六八)
	自動車の客(六〇枚)……………林芙美子(二〇八)
	計算は計算……………岸田国土(一一二)
	情婦の火……………田村泰次郎(二四八)
	碧落……………井上靖(一五六)
	無言の空……………高見順(一九二)
	花天狗流開祖……………坂口安吾(二三六)
	たはむれ……………石川達三(二二六)
	新西遊記(八〇枚)……………久生十蘭(二五二)

少年詩篇……堀辰雄(七八)
醉歌……三好達治(一九〇)

長椅子の女……大久保泰(一四六)
マチスの奇蹟……猪熊弦一郎(二三四)
フォンテンプロオの森……福島繁太郎(二七六)

カツト……山本敬輔・脇田和・野口弥太郎／林武・岡鹿之助・山口
長男

[総二七八頁・定価百円]

第二十号 昭和二十六年三月五日発行
第二十号記念 目次

表紙……安井曾太郎
口絵……ブラック アングル クールベ コロー ドガ／ルノアール
セザンヌ ボナール マチス

小説二十人集

大阪城……林芙美子(一七)

虚空……阿部知二(三二)

虚空鈴慕……中山義秀(四四)

津の守の雪……舟橋聖一(五六)

椅子……三島由紀夫(二三)

柳の芽……久保田万太郎(六六)

情婦の火……田村泰次郎(七四)

眩く幽鬼……高見順(八二)

常陸帯……石川淳(九四)

表彰……井上靖(一〇四)

魔性……北原武夫(一三〇)

浜唄……中里恒子(一三八)

銀座川……井上友一郎(一一四)

片おもひ……真船豊(一五〇)

一九九〇年……武田泰淳(一八六)

手を拝む……室生犀星(一六四)

猪鹿蝶……久生十蘭(一七三)

九段……坂口安吾(二〇七)

街灯……丹羽文雄(二一八)

靴……広津和郎(二四〇)

陽春狂想曲……佐藤春夫(一八四)

スーラの孤愁……岡鹿之助(七二)

水の画家……福島慶子(一一八)

ヴィナスの生誕……大久保泰(二五〇)

カツト……野口弥太郎・林武・川端実／三雲祥之助・山本敬輔・高
畠達四郎

[総二五六頁・定価百円]

第二十一号 昭和二十六年五月二十日発行
新緑小説集 目次

表紙……マチス

口絵……写真・マチス／風景・池・ピカソ／彫刻集・ピカソ

たまゆら……川端康成（一六）

新魔法使い……坂口安吾（七九）

若葉のころ……舟橋聖一（二八）

夜番……井伏鱒二（四七）

猿人の合唱……武田泰淳（五八）

そばやまで……永井龍男（三八）

保守的な指輪……林房雄（一〇四）

焚火……由起しげ子（一一八）

風変りな墓標……檀一雄（二〇二）

極楽鳥……大仏次郎（九三）

誘惑……椎名麟三（一二九）

二人の小説家……尾崎士郎（一四四）

溶ける男……梅崎春生（一五七）

御室の桜樹……林芙美子（一七〇）

妖精水結……田村泰次郎（一九〇）

出発……芹沢光治良（一七八）

伯母ちゃん……里見弴（二二八）

詩 ロシヤの歌ごゑ……神西清（九八）

ピカソの風景画……福島繁太郎（二四二）

美術と遊び……益田義信（二四四）

生きているユトリロ……宮田重雄（二六八）

マチスの表紙絵について……佐藤敬

カット……野口弥太郎・石川滋彦

第二十二号 昭和二十六年七月三日発行

夏の小説集 目次

表紙……安井曾太郎

口絵……ルノアール

沈黙の女……阿部知二（八）

事務のやうなもの……平林たい子（二二）

膝が走る……坂口安吾（三四）

緑の幻影……八木義徳（四六）

台縁奇縁……石川淳（六八）

[総二四六頁・定価百円]

ポナール……福島繁太郎(二三三)

カクト……高島達四郎・脇田和・高岡徳太郎・川端実

[総二三八頁・百円]

第二十四号 昭和二十六年十月三十日発行

目次

表紙(本誌特別寄稿)……ブラック

口絵(静物)……ブラック

小説二十人集

二重星……川端康成(八)

李夫人……中山義秀(三〇)

女の一生……平林たい子(四二)

悪魔の微笑……武者小路実篤(五八)

十夜柿……永井龍男(一二六)

剥製の人……井上友一郎(九八)

佳代子……真船豊(一一一)

妖怪……今日出海(八四)

合縁奇縁……石川淳(七〇)

職場のささやき……武田泰淳(一三四)

競輪と淫売婦と……川崎長太郎(一五四)

ゴム人間ときよん……森三千代(二四四)

動物……大岡昇平(一七六)

石仏と裸女……田村泰次郎(一八二)

番茶の出家……藤原審爾(一九二)

沈黙の女……阿部知二(一九八)

濁れる淵に……真杉静枝(一六七)

空中楼閣……安部公房(二〇八)

月と蝙蝠……舟橋聖一(二二二)

玉取物語……久生十蘭(二三二)

老友美……室生犀星(一五二)

一日……高橋新吉(一九六)

戦争中のブラック……佐藤敬(二四二)

ブラックの高雅……福島繁太郎(二四四)

カクト……林武・三雲祥之助・寺田竹雄／川端実・鈴木信太郎

[総二四六頁・定価百円]

第二十五号 昭和二十六年十二月二十五日発行

新春小説集 目次

表紙……安井曾太郎

口絵……セザンヌ／ロダン

新しいパリ 70枚「横」……芹沢光治良(五二)

びしよ濡れの恋 70枚「横」……藤原審爾(二〇四)

指輪の話 75枚「横」……由起しげ子(二八七)

特選短篇小説集

菜の花は赤い……岸田国士(一二二)

落日……中山義秀(二二二)

悪態……丹羽文雄(三〇〇)

離宮の松……三島由紀夫(四〇〇)

戦ひの権化……石川達三(七五)

数寄屋橋……井上友一郎(一三八)

沈黙の女……阿部知二(九二)

どうにかなるさ!……林房雄(一五二)

変易不易……井伏鱒二(八二)

春の葬式……石川淳(一二四)

鴨(ひよどり)……井上靖(一六二)

夜ふけの枕……舟橋聖一(一七二)

お正月……川端康成(二二三)

傷痕……広津和郎(二三二)

泡沫うたかたの記……久生十蘭(二一〇)

底知れぬセザンヌ……福島繁太郎(二八二)

深みの感覚……富永惣一(二四六)

ポートサイドからスエズ……川島理二郎(二〇二)

額縁……高島達四郎(一三六)

カット……宮本三郎・脇田和・三岸節子・野口弥太郎

[総二五〇頁・定価百円]

第二十六号 昭和二十七年二月二十六日発行

目次

表紙……マチス

口絵……ドラン

白雪……川端康成(一六)

古びた地図……椎名麟三(六四)

歴史……堀田善衛(一四四)

花子の陳述……豊島与志雄(二三三)

葉桜……丹羽文雄(八)

耳……武田泰淳(三四)

容疑者……尾崎士郎(四四)

沈黙の女……阿部知二(五四)

白梅……真船豊(九五)

消えた女……田村泰次郎(八七)

新しいパリ……芹沢光治良(一一四)

落葉宿……石川利光(一三四)

縁切りお岩……舟橋聖一(一六六)

幸福な女……武者小路実篤(一七六)

女心……平林たい子(二二〇)

宋蓮花 110枚「横」……中山義秀（二八八）

途中下車……広津和郎（一〇〇）

近代美術館……谷口吉郎（一八六）

真説親馬鹿の記……尾崎一雄（八二）

ドランの安定感……福島繁太郎（二三五）

沈黙の女……阿部知二（六四）

冬の夜……プーシキン／神西清訳（二二二）

龍……火野葦平（一五四）

文藝春秋三十年記念事業（別刷）

大きなのと小さいの……大岡昇平（二八七）

カット……野間仁根・山口薫・寺田竹雄／猪熊弦一郎・川口軌外・脇田和

〔総二三八頁・定価百円〕

妙な女……三好十郎（二二二）

部落の南北戦……張赫宙（二六六）

花の十字架……阿部光子（二〇二）

新しいパリ……芹沢光治良（二二九）

第二十七号 昭和二十七年四月二十五日発行

木と草と……里見淳（二一四）

目次

陽春狂想曲……佐藤春夫（二四八）

表紙……マチス

コント集

口絵……マルケ

学者の冒険……今日出海（四九）

わが心の女……神西清（九四）

乗合自動車……井伏鱒二（八）

ある貞節……由起しげ子（一九四）

帯横丁・鬼横丁……舟橋聖一（二八）

マチスの言葉……川島理一郎（二三二）

くるす抄……中里恒子（五六）

マチスとマルケ……大久保泰（二三四）

春日閑話……藤原審爾（七七）

カット……脇田和・高島達四郎・川端実／中山巍・朝井閑右衛門・

他人の自由……石川淳（二八）

青山義雄

[総二三八頁・定価百円]

第二十八号 昭和二十七年六月二十五日発行
緑陰小説集 目次

表紙……マチス
口絵……デュファイ

人情検算器……丹羽文雄(二二)
美しき湖のほとり……武田泰淳(三二)
鉢の木……井上友一郎(八〇)
新しいパリ……芹沢光治良(九四)
画帖……久保田万太郎(一四〇)

春の鐘……川端康成(八)
都会の脱落……小山いと子(四二)
仔犬と香水瓶……井上靖(一二〇)
うたたねの橋……森山啓(一七二)
海難記……久生十蘭(二二四)

挿話……田宮虎彦(六九)
音無しの風……舟橋聖一(一五二)
浮名……尾崎士郎(一六二)
虐艶録……室生犀星(二〇〇)
沈黙の女……阿部知二(二二二)

南米紀行……三島由紀夫(二一四)

酒に対する生活と意見……伊藤整(二四六)
おこらめ哲学……飯沢匡(一九六)

デュファイの巴里祭……富永惣一(二二二)

カット……三岸節子・宮本三郎・中山巍・山口薫／鈴木信太郎・野
口弥太郎・川端実・高岡徳太郎／野間仁根・高島達四郎・三田康・
児島善三郎

[総二四六頁・定価百円]

第二十九号 昭和二十七年八月二十五日発行
新涼小説集 目次

表紙……安井曾太郎
目次カット……林武

五万枚の小説を書いた男……浦松佐美太郎(二三)
私の履歴……丹羽文雄(三〇)
丹羽文雄の親分ぶり……十返肇(三二)
グラビア丹羽文雄……田村茂
五万三千枚の著作簿……(二九)
全滅……火野葦平(八〇)

苦いおもひ……佐多稲子(六八)
色即是空……井上友一郎(五七)

幽霊……坂口安吾(一〇三)

新しいパリ……芹沢光治良(一三〇)

勝負事是非か……正宗白鳥(二三〇)

落葉松……井上靖(一七九)

五十歳の日記……外村繁(一五二)

ピアノ……壺井栄(一一八)

深窓の美女……飯沢匡(一六四)

鱸とおこぜ……阿川弘之(九二)

夜露……舟橋聖一(二一八)

私のベスト5「横」

日本文学……中野好夫(一九二)

外国文学……井伏鱒二(一九三)

美術……高見順(一九四)

映画……山本嘉次郎(一九六)

東条を狙ふ男……今日出海(三四)

柳の葉よりも小さな町……上林暁(一九八)

回想の芥川賞……宇野浩二(二三五)

表紙の言葉……安井曾太郎(二三四)

カット……鳥海青児・大森啓助・清水崑／脇田和・駒井哲郎・山本
丘人

[総二五二頁・定価百円]

第三十号 昭和二十七年十月二十五日発行

第三十号記念号 芥川賞直木賞「角」作家小説選 目次

表紙……ブラック 目次カット……脇田和

芥川賞作家選

嫉妬……石川達三(二八)

水源地……尾崎一雄(一一六)

醉漢……中山義秀(三六)

蜘蛛……石川淳(八六)

木彫りの牛……八木義徳(一五四)

叛逆者……火野葦平(二〇八)

美也と六人の恋人……井上靖(五八)

零点運動……堀田善衛(一三六)

芥川・直木賞の歴史……(三三)

時計と賞金……(三四)

石川達三・鶴田知也・小田岳夫・富沢有為男／尾崎一雄・石川

淳・火野葦平・半田義之／寒川光太郎・桜田常久・多田裕計・芝

木好子／倉光俊夫・東野辺薫・八木義徳・小尾十三／清水基吉・

由起しげ子・小谷剛・井上靖／辻亮一・石川利光・安部公房・川

口松太郎／海音寺潮五郎・木々高太郎・橘外男・大池唯雄／堤千

代・河内仙介・村上元三・木村荘十／田岡典夫・森荘巳池・富田
常雄・今日出海／小山いと子・源氏鶏太・久生十蘭・柴田鍊三郎

第三十一号 昭和二十七年十二月二十五日発行
目次

直木賞作家選

表紙……小林古徑 目次絵……安井曾太郎

舞妓……川口松太郎(二三八)

親子浄瑠璃……村上元三(九六)

垣根……今日出海(七六)

鉄……小山いと子(一六四)

後妻の話……源氏鶏太(四五)

雪原敗走記……久生十蘭(一七六)

「奥の細道」の一週間……井伏鱒二(二五〇)

新春珠玉短篇小説

傷の後……川端康成(四〇)

答案……久保田万太郎(二三二)

紫雲現世会……丹羽文雄(二一〇)

庭……永井龍男(八六)

花吹雪……阿川弘之(一五〇)

お婆さんの鈴……林房雄(五八)

金魚草……川崎長太郎(二二二)

パリへパリへと……飯沢匡(一九八)

女の顔……田宮虎彦(一三八)

秋の羽織……舟橋聖一(一九七)

百万人の文学の秘密……浦松佐美太郎(二三)

吉川英治アルバム……林忠彦

カット……岡鹿之助・脇田和・麻生三郎・古茂田守介・桂ユキ子・

川端実

二十世紀最高傑作「角」老人と海……ヘミングウェイ／福田恆存訳

〔総二六八頁・定価百円〕

(一〇二)

木曾冠者……中山義秀(五〇)

巴里の門……田村泰次郎(九四)

真夜中の顔……舟橋聖一(一八二)

私の好きな作中人物

魅力的な女主人公たち……石川達三(三九)

愛する江波恵子を……石坂洋次郎(八五)

ジイドの颯爽たる青年……井上靖(一六一)

「パルムの僧院」の若者……大岡昇平(二〇九)

希臘から現代まで……三島由紀夫(二二二)

反俗を貫く最後の文人……奥野信太郎(一三)

永井荷風アルバム……編集・木村伊兵衛

カツト……鈴木信太郎・野間仁根・森田元子・三田康・杉本健吉

[総二六八頁・定価百円]

第三十二号 昭和二十八年二月二十五日発行

目次

表紙……岡鹿之助 目次絵……小倉遊亀

熱海といふ名の街……舟橋聖一(三八)

雪と海の大佐渡小佐渡……井上靖(六〇)

春の短篇小説

服部のお城山……井伏鱒二(二二)

詩人の死……高見順(五二)

法皇の猿……中山義秀(二九)

風引……丹羽文雄(二二六)

影絵の街……田村泰次郎(一三七)

愛と誓ひ……武田泰淳(二一四)

停電……小山いと子(一七六)

一粒の麦……北原武夫(七五)

学校騒動……尾崎士郎(二三六)

腸詰奇談……飯沢匡(八六)

弱肉強食……井上友一郎(一八四)

芥川賞第一作

梟示抄……松本清張(一四八)

背信の人と歩いた……五味康祐(二六五)

外国作家人生ストーリー

厭人文士の恋……中野好夫(一〇四)

忘却の砂漠にて……西条八十(一二六)

墮天使の決闘……神西清(一一四)

文壇の怖るべき子供……浦松佐美太郎(二三)

三島由紀夫アルバム……樋口進

カツト……三岸節子・福田豊四郎・石川滋彦／近藤日出造・曾宮一念・直木久蓉／木村莊八・柰田たけを

[総二六八頁・定価百円]

第三十三号 昭和二十八年四月二十八日

目次

表紙……福田豊四郎 目次絵……野口弥太郎

歴史小説特集

木曾殿末路……中山義秀(二四九)

天目山の雲……井上靖(二九)

戦国権謀……松本清張(一〇七)

歴史の背景を行く

関ヶ原百里……尾崎士郎(四四)

憤怒と悲哀の吉野山……亀井勝一郎(二一〇)

特選短篇小説

蚊の夢……川端康成(二二)

江口初女覚書……三島由紀夫(六〇)

青春つぶれ……正宗白鳥(七〇)

電気洗濯器……尾崎一雄(一三四)

晩花……川崎長太郎(二二五)

白い泥沼……田村泰次郎(一二四)

サンタ・マリア……耕治人(二八一)

攪乱者……八木義徳(一七〇)

化学繊維……丹羽文雄(一四四)

島原半島……火野葦平(一九二)

雨月物語……石川淳(八〇)

夜ふけの都・熱海……舟橋聖一(八八)

或る作家の郷愁……河上徹太郎(一三)

久保田万太郎アルバム……木村伊兵衛

表紙の言葉……(八七)

カツト……杉本健吉・川口軌外・由良玲吉／猪熊弦一郎・向井潤吉・

木村莊八／初山滋

[総二六八頁・定価百円]

第三十四号 昭和二十八年六月二十八日発行

目次

表紙……佐野繁次郎 目次絵……山本丘人

戦争小説特集

南十字星下の戦(二〇〇枚)……野間宏(二二)

真珠湾の脱走兵 (二五〇枚) ……J・ジョーンズ (二三八)

直木久蓉

緑蔭短篇小説

忘れ得ぬ人々…大岡昇平 (二二二)

市井事…丹羽文雄 (八二)

仏法僧…石川淳 (二二二)

深い川…井上友一郎 (九四)

日本陥没…飯沢匡 (二〇一)

罪の肉体…田村泰次郎 (二三〇)

結婚の風土…藤原審爾 (二二一)

淡雪…川崎長太郎 (二二九)

にはかへんろ記…久保田万太郎 (二四〇)

Gストリングの哀愁…舟橋聖一 (二八六)

史伝中篇小説

小西行长…尾崎士郎 (二五四)

忠義物語…田宮虎彦 (一〇四)

硝煙と軍靴の後に来るもの…吉田健一 (二二三)

大岡昇平アルバム…浜谷浩

戦争小説…(二一) 歴史小説…(九三)

カッタ…林武・宮本三郎・麻生三郎・生沢朗／脇田和・初山滋・

第三十五号 昭和二十八年八月二十八日発行
目次

表紙…山本丘人 目次絵…脇田和

特集 小説日本歴史

兎唇男の死…丹羽文雄 (二二)

憂き呉竹…北条誠 (二八)

美福門院…川田順 (四〇)

信康自刃…井上靖 (五六)

英雄愚心…松本清張 (七一)

赤穂浪士…尾崎士郎 (八九)

断腸の月…井上友一郎 (二〇四)

決戦川中島

上杉謙信の巻…坂口安吾 (一六六)

武田信玄の巻…檀一雄 (二七四)

短篇小説十三人集

休憩三十分…久保田万太郎 (二三六)

颯風期…広津和郎 (一一八)

ナポリ…火野葦平 (一三四)

[総二六八頁・定価百円]

- 夢応の鯉魚……石川淳(二三〇)
赤犬の徒……上林暁(一四五)
鯛……川崎長太郎(二〇八)
夜襲……阿川弘之(二〇二)
折紙人……飯沢匡(一八四)
情夫の群……田村泰次郎(一九四)
鬪争……寺崎浩(二一九)
米泥棒……伊藤永之介(二四二)
勲章……安岡章太郎(一二四)
- 信濃路の女たち……舟橋聖一(二五三)
- 東京のヘドを吐く作家……山本健吉(一三)
高見順アルバム……秋山庄太郎
- 風俗小説……(二一)
- カット……小磯良平・福田豊四郎・田村孝之介・初山滋／近藤浩一
路・由良玲吉・鈴木信太郎・近藤日出造
- [総二六八頁・定価百円]
- 第三十六号 昭和二十八年十月二十八日発行
目次
- 表紙……福田豊四郎 目次絵……恩地孝四郎
- 慾の果て……丹羽文雄(二三五)
京舞妓・だらりの帯……舟橋聖一／カメラ・樋口進(二三二)
- 秋の短篇小説
- 蛇の卵……川端康成(二〇)
花は満開……武者小路実篤(一六二)
戴冠式……火野葦平(二二二)
方舟……室生犀星(六六)
砲車追撃……野間宏(九七)
土曜日……尾崎士郎(一五四)
看護婦圭子……小谷剛(一七五)
菊花の約……石川淳(七八)
裸の祈り……田村泰次郎(二〇四)
株根っこ……飯沢匡(二二二)
秋の墓……石上玄一郎(二二八)
魔の瞬間……耕治人(八六)
- 革命と女と……新田潤(四五)
初霜の頃……井上友一郎(一一二)
- 西洋伝奇小説
- ある兵士の手帳……久生十蘭(一九〇)
九日間の女王……神西清(三〇)
- 近代小説の開拓者……山本健吉(一三)

志賀直哉アルバム……杉山吉良

私小説……(一九) 諷刺小説……(一五三)

カット……木下孝則・佐野繁次郎・吉岡堅二・中川紀元／佐伯米子・
鈴木信太郎・初山滋・野間仁根

[総二七二頁・定価百円]

第三十七号 昭和二十八年十二月二十八日発行

芥川賞直木賞「角」作家小説特集号 目次

表紙……福田豊四郎 目次絵……佐野繁次郎

芥川賞作家選

桜花……中山義秀(二二)

浅茅が宿……石川淳(四六)

廃墟の街……火野葦平(九二)

陽の赤味……半田義之(一二二)

曠恚と死……長谷健(一六三)

築地小田原町……安岡章太郎(二〇八)

グウドル氏の手套……井上靖(三五)

麻衣緑衣……五味康祐(一四八)

贗札づくり……松本清張(六〇)

二つの賞の間……永井龍男(五四)

戦後の芥川賞……丹羽文雄(一七八)

芥川・直木賞総まとめ……十返肇(二三八)

受賞作家の近況……(二〇三)

直木賞作家選

安土セミナリオ……井伏鱒二(二八)

菜の花……村上元三(二二八)

極楽急行……海音寺潮五郎(二四四)

父……堤千代(八四)

月は曇らず……木村莊十(二一七)

白い谷間の朝……森莊巳池(七三)

九十九里……山田克郎(一八二)

六条執念……木々高太郎(一〇四)

大赦請願……久生十蘭(一三六)

もう手遅れ会……源氏鶏太(一九二)

競馬物語……舟橋聖一(二五四)

世にも不思議な作家……臼井吉見(二三)

文学の鬼……木村伊兵衛

カット……木村莊八・児島善三郎・石川滋彦・宮田重雄／岡本太郎・
桜井悦・初山滋

[総二六八頁・定価百円]

軍事法廷……耕治人(二五八)

第三十八号 昭和二十九年二月二十八日発行

女の小説集

目次

雲紀……吉屋信子(二四八)

表紙……川端龍子 目次絵……長沢節

捨犬……小山いと子(一八四)

日本海の波……久保田万太郎(八一)

南天の雪……壺井栄(二三六)

大阪かやくがき……永井龍男(二二五)

花びら……由起しげ子(三一)

人われをパンパンと言ふ……井上友一郎(一二四)

春の小説特選

女流作家総まくり……十返肇(二二〇)

宗湛と治郎作……井伏鱒二(二四)

白峯……石川淳(一一〇)

競馬風流抄……舟橋聖一(一九四)

着物について……上林暁(五二)

方丈の住人……中山義秀(二三)

北方の結婚……阿部知二(四二)

機械……北原武夫(一三七)

灯なき小舎の作家……カメラ・田沼武能／文・宇野浩二

湖畔の人……松本清張(九八)

教祖裸身……寺崎浩(二〇八)

観念小説……(九六) 実験小説……(九七) 心理小説……(七六)

女との距離……田村泰次郎(一一七)

恐怖と快感……武田泰淳(一七二)

カット……佐野繁次郎・向井潤吉・初山滋・奥村土牛・桂ユキ子

御神体……飯沢匡(二四六)

[総二七二頁・定価百円]

泣き面相……金達寿(六二)

大理石の膝……五味康祐(二五六)

第三十九号 昭和二十九年四月二十八日発行

目次

目次

表紙……安井曾太郎 目次絵……伊藤廉

表紙……安井曾太郎 目次絵……伊藤廉

表紙……安井曾太郎 目次絵……伊藤廉

表紙……安井曾太郎 目次絵……伊藤廉

その日そんな時刻……井上靖(二二八)
都に夜のある如く……高見順(二四二)

新緑の小説集

横町……川端康成(二二)
弥助の奮戦……井伏鱒二(二〇〇)
青頭巾……石川淳(二〇八)
女色転々……川崎長太郎(五二)
博多土産……井上友一郎(三六)
家庭……安岡章太郎(四五)

海に鳴る鐘……神西清(六二)
燃ゆる雪……真杉静枝(一〇八)

灰が降る……三好達治(三二)

水爆エレヂイ……草野心平(三四)

歴史小説特集

売られた男……尾崎士郎(二二八)
遠島の春……林房雄(一九二)
奥羽の二人……松本清張(二二四)
寛永の剣士……五味康祐(一六五)
弘法大師の末裔……丹羽文雄(八二)
赤線風流抄……舟橋聖一(一七六)

薫風の文壇句会……玉川一郎(二〇四)

ある鎌倉の文人……山本健吉(一三)

大仏次郎アルバム……石井彰

カット……三雲祥之助・生沢朗・初山滋・朝井閑右衛門／中村丘陵・
杉本健吉・井上長三郎・川端実／野口弥太郎・三田康・森田元子

[総二七二頁・定価百円]

第四十号記念特別号 昭和二十九年七月三日発行

別冊文藝春秋第四十号記念 目次

表紙……ブラック 目次絵……福田豊四郎

水人のところ……今日出海(一七)

浮気な灯影……高見順(二三四)

短篇小説二十人集

夢……正宗白鳥(四〇)
すべては過ぎ行く……武者小路実篤(七二)
他人のはなし……久保田万太郎(二六四)
薄色の封筒……丹羽文雄(四六)
人氏人子……室生犀星(一九〇)
落武者……井伏鱒二(一一五)
殺意……井上靖(二二二)

抜かれた釘……火野葦平(二〇四)
復讐……三島由紀夫(八〇)
光明院の鐘の音……上林暁(八七)
明るい友……阿部知二(五四)
貧福論……石川淳(一四二)
お雪さん……井上友一郎(一七〇)
楽焼……尾崎一雄(一三四)
窖の青春……田村泰次郎(一四九)
幼年……檀一雄(二〇二)
航海日誌……阿川弘之(二二二)
毛……安岡章太郎(六三)
ひとり旅……松本清張(一八一)
三枚のゼロ……耕治人(二二一)
師と友のそとに……水原秋桜子(一五六)
雨に濡れる赤坂……舟橋聖一(二七四)

現代詩二十人集

澆季落日曲……佐藤春夫
埴輪……高橋新吉(九四)
木苺の原……尾崎喜八
八月……三好達治(九五)
六月の朝……西脇順三郎
危機……岡本潤(九六)
キヤベツのフアンタジイ……丸山薫

犬ころ……許南麒(九七)
灰の水曜日……堀口大宇
さんたんたる鮫鱈……村野四郎(九八)
地獄の季節……田中冬二
穴……小野十三郎(九九)
大鯨の歌……草野心平
夜咳をする……大木実(一〇〇)
鉄粒の行衛……北川冬彦
鮪に鯛……山之口猷(一〇一)
輪の外……吉田一穂
はなびら……金子光晴(一〇二)
雨……壺井繁治
銀座ネプスキイ街……菊岡久利(一〇三)

戦後作品ベスト10

河上徹太郎 亀井勝一郎(二〇〇) 河盛好蔵 吉田健一(二三二)
十返肇(二七三) / 浦松佐美太郎 白井吉見(四五) 山本健吉(七九)
中村光夫(二六三)

本誌特写「角」眼で見る日本文壇

[総二八八頁・定価百円]

第四十一号 昭和二十九年八月二十八日発行
目次

表紙……宇治山哲平 目次絵……小野末

檻樓の匂ひ……丹羽文雄(二二二)

今昔の大阪……宇野浩二(二三三)

いかがはしき密語……高見順(九四)

秋の小説特選

難民その他……井伏鱒二(六九)

心中する話……藤沢恒夫(七四)

養子の縁……壺井栄(八四)

森の声……芹沢光治良(二二二)

野良犬……川崎長太郎(一三五)

街の中……佐多稲子(二〇六)

水野十郎左……尾崎士郎(一一〇)

声なき男……武田泰淳(五四)

多情の雨……井上友一郎(一九二)

蛇性の姪……石川淳(一四六)

ロマンス・グレイ……飯沢匡(二六二)

小説・文芸家協会……豊田三郎(二六〇)

水の上の文壇句会……洪沢秀雄(二一六)

真菰の中……久保田万太郎(二七八)

加賀の湯女……舟橋聖一(一七六)

耽美の人・潤一郎……十返肇(一三)

谷崎潤一郎アルバム……樋口進

カツト……鍋井克之・三雲祥之助・伊原宇三郎・猪熊弦一郎／吉岡

堅二・鈴木信太郎・初山滋

〔総二八四頁・定価百円〕

第四十二号 昭和二十九年十月二十八日発行

目次

表紙……福田豊四郎 目次絵……小倉遊亀

老俳優の思ひ出……谷崎潤一郎(二二)

チャンピオン……井上靖(三六)

水際の人……堀田善衛(一一)

見事な虐待者……高見順(一六〇)

花形小説特選

目撃者……丹羽文雄(六七)

湯屋と温泉……なかのしげはる(七六)

詩人との出逢ひ……伊藤整(九九)

百聞と一見……小山いと子(八八)

交合の囀……井上友一郎(二四四)

秋の日……外村繁(二二八)

裸女のゐる隊列……田村泰次郎(二二二)

二世の兵士……阿川弘之(一八七)

浅草広小路序説……久保田万太郎(一九八)

伊吹山麓……尾崎士郎(一〇八)

霧に蹲る……五味康祐(一四五)

秋の武蔵野文壇句会……中里恒子(二四〇)

風化地帯……火野葦平(二二八)

街の女とドヤ……舟橋聖一(二五四)

山国の小説家……河上徹太郎(二二)

中山義秀アルバム……浜谷浩

文藝春秋愛読者大会御案内……(別刷)

カット……小糸源太郎・三雲祥之助・吉岡堅二／鈴木信太郎・生沢

朗・伊原宇三郎／桜井悦・石川滋彦・猪熊弦一郎

[総二六八頁・定価百円]

第四十三号 昭和二十九年十二月二十八日発行

芥川賞直木賞「角」作家特集号 目次

表紙(雪の観測所)……岡鹿之助 目次絵……木村荘八

芥川賞作家選

天堂に昇つた女……中山義秀(二一五)

老いたる駅長と若き船長……井上靖(八二)

風雪断碑……松本清張(三一)

大歳の餅……石川淳(九七)

花札……火野葦平(七二)

清兵衛の最期……五味康祐(二〇六)

科学的人間……安岡章太郎(二〇二)

その頃の青年作家……石川達三(五六)

直木賞銓衡委員……小島政二郎(二二七)

時計・会・材料……井伏鱒二(一五八)

直木賞作家選

滝山騒動……村上元三(二一四)

幽霊軍艦の夢……今日出海(六〇)

紅うら……小山いと子(一七三)

役者……川口松太郎(二二)

或る社長夫人の話……源氏鶏太(二三四)

現行犯……有馬頼義(一四一)

小説百科全書

二段組上段

世界の文学賞……河盛好蔵(二五七)

金持ち作家と貧乏作家……浦松佐美太郎(二六〇)

色魔主人公……中島健蔵(二七一)

恋愛小説ベスト・テン……山本健吉(二七二)

女豪傑の十人……河上徹太郎(二七四)

滑稽諷刺小説……飯沢匡(二七八)

〔二段組下段〕

芥川賞の作家作品……(二四七)

直木賞の作家作品……(二五三)

愛される主人公……亀井勝一郎(二六五)

大衆文学ベスト・テン……十返肇(二六二)

忘れられた作家……臼井吉見(二七六)

一九五四年の優秀作品……(二四六)

東奔西走譚……井上友一郎(二三〇)

東京の不知火……高見順(一九八)

風流抄の作家……野口富士男(一三)

舟橋聖一アルバム……カメラ・樋口進

カツト……宮本三郎・高橋忠弥・伊藤廉／海老原喜之助・由良玲吉

〔総二七八頁・定価百円〕

附録「文藝春秋別冊」

文藝春秋 別冊1 昭和二十一年二月一日発行 第二十四卷第二号

目次

表紙・飾絵……青山二郎

創作〔横〕

毒……舟橋聖一(六)

名付親……島木健作(三三)

契約書……井伏鱒二(四四)

一人行く……平林たい子(六八)

煙管の独白……橋本英吉(九二)

霜しづく……久保田万太郎(一二六)

(詩) けらとうそ……室生犀星(一二五)

(歌) 閑庭……会津八一(六七)

(俳句) 落葉……中村汀女(二五二)

船橋の魚……林芙美子(二五二)

民主主義の歴史……長谷川如是閑(二六〇)

日本人について

狐穴の日本人……大仏次郎(一三六)

我観日本人……佐藤春夫(一四一)

頽廢を救ふもの……今日出海(一四六)

特別読物「角」失はれた部隊……岡田誠三(一六六)

編集後記……(一九二)

〔総一九二頁・定価四円五十銭〕

文藝春秋 別冊2 昭和二十一年五月一日発行 第二十四卷第三号

目次

表紙・扉絵……青山二郎

自由と偏見……田中美知太郎(六)

仏蘭西革命と民主主義……関根秀雄(二七)

続千里眼物語……中谷宇吉郎(二四)

去年の春……宮城道雄(五四)

熱海……式場隆三郎(五〇)

文明と野蛮……金田一京助(三六)

詩に関する随想……伊吹武彦(三一)

ジャアナリズムについて……上林暁(四〇)

カツト……武者小路実篤・青山二郎

創作

古戦場……横光利一(五七)

放牧……林芙美子(七三)

箱根の山……田中英光(九六)

竹軒……清水基吉(一五六)

赤色赤光……若杉慧(一一六)

暴力の下に……寺崎浩(一三二)

契約書……井伏鱒二(一七九)

編集後記……(一九二)

〔総一九二頁・定価六円〕

付記 なお、本「史料紹介」は、科学研究費助成事業(学研究

助成基金助成金(基盤研究(C))課題番号二四五二〇二〇

五)の助成を受けた研究成果の一つである。